

アルヴァ・アアルト生誕120周年記念

国際シンポジウム & 展覧会

—内省する空間— アアルトの図書館と住宅

国際シンポジウム

日時：2019年3月16日(土) 13:30-17:30 (開場 13:00)

会場：建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

参加費：一般 2,000円、後援団体 1,500円

学会会員 1,000円、学生 500円 (会員証、学生証を提示)

定員：200名 (申込先着順)

事前申込：日本建築学会webサイト <https://bit.ly/2EyqapE>

- ・基調講演 1 テーム・クルケラ (JKMM アーキテクト)
- ・基調講演 2 堀場 弘 (東京都市大学教授 / シーラカンス K&H)
- ・セッション トンミ・リンダ (アルヴァ・アアルト財団マネージング・ディレクター)
和田菜穂子 (AALTO120代表、東京建築アクセスポイント)

[モデレーター] 三宅理一 (東京理科大学客員教授)

*同時通訳あり *レセプション 18:00-19:30 (会費制)

展覧会

日時：2019年3月4日(月) - 17日(日)

10:00-19:00 (土日は10:00-17:00) *会期中無休

会場：日本建築学会建築博物館ギャラリー (東京都港区芝 5-26-20)

入場料：無料

アルヴァ・アアルト (1898-1976) の建築には可視化できない薄いベールのようなものが存在しているように思われます。それによって包まれた室内は、一人で物思いに耽る空間、もしくは読書の世界に没頭する空間に姿を変え、人々を誘います。アルヴァ・アアルトの生誕 120 周年を記念し、日本建築学会とフィンランドセンターの共同主催で、「内省する空間 Introspective Space」と題し、国際シンポジウムと展覧会を開催します。国際シンポジウムではフィンランドから JKMM アーキテクトの一人テーム・クルケラ氏とアルヴァ・アアルト財団のトンミ・リンダ氏を招聘し、現代におけるアアルトの意義を再考します。JKMM アーキテクトは 1998 年よりヘルシンキを拠点に活動している 4 人の建築家が率いる設計事務所で、《トゥルク市立図書館》(2007 年竣工) や《セイナヨキ市立図書館》(2012 年竣工) などを手がけています。日本建築学会建築博物館ギャラリーにおける展覧会では、複数の大学研究室の学生らによって製作されたアアルトの模型を展示します。アアルトの空間を多角的に読み解く機会になれば幸いです。

主催者

主催：一般社団法人日本建築学会、フィンランドセンター

協賛：株式会社建築構造センター、株式会社日本設計、アルテック、株式会社インターオフィス、

鹿島建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店、株式会社日建設計、株式会社山下設計、一般社団法人日本建築文化保存協会

後援：フィンランド大使館、東京ステーションギャラリー、北欧建築・デザイン協会

協力：工学院大学鈴木研究室、東京理科大学垣野研究室、東北芸術工科大学西澤研究室、名古屋市立大学久野研究室+有志学生 (愛知淑徳大学、大同大学、名城大学、名古屋大学)、スタジオ香川、AALTO120、一般社団法人東京建築アクセスポイント、一般社団法人 DOCOMOMO Japan

模型出展協力：関口美術館 写真出展協力：小泉 隆 (九州産業大学教授)

展覧会会場構成：東京理科大学岩岡研究室

キュレーション：和田菜穂子